

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	神崎市立仁比山小学校		
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・全体として、児童は落ち着いた学校生活を送ることができた。組織が効果的に機能し、職員一人一人が自分の役割を責任をもつとともに、役割以外の部分でも助け合い支え合いができた。 ・校内研究において、「学びをつなげる主体的な学習者の育成」に向けて、全教職員で取り組むことができた。しかし、各種調査の結果から見えてきた課題も多い。さらに、家庭学習も十分とは言えない。学校と家庭、毎時間の授業を「つなぐ」を意識し、授業力向上、学力向上に努めていくことが重要である。 ・生活事故、交通事故への対応は、常時危機意識をもってレベルアップしていく必要がある。未然防止に努め、児童の安全意識や危機回避能力を高めるとともに保護者、地域との連携を密にしながら、安心安全な学校運営に全職員一丸となって取り組んでいく必要がある。 		
2 学校教育目標	ふるさとを愛し、共に学び、心豊かにたくましく生きる「仁比山っ子」の育成		
3 本年度の重点項目	1 学力向上(1) 主体的な学習者の育成を目指して授業改善を推進し、確かな学力を身に付けさせる。 (2) 学びの土台を作り、学びがつけられるような体制づくり、習慣作りに取り組む。 2 命と人権教育の推進・・・感性を育む読書指導、道徳教育の充実 3 ふるさとを愛する人づくり・・・「公」意識・規範意識の醸成、ふるさと自慢		

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
	○学びをつなげる主体的な学習者の育成」を目指す校内研究の推進	○主体的な学習に関する意識調査で肯定的な回答をした児童・保護者が80%以上(授業研究部) ○自主学習に関する意識調査で肯定的な回答をした児童・保護者が80%以上(学習推進部)	○授業研究部を中心に、主体的な学習に向かうための算数科における学習指導方法の研究に取り組む。 ○自主学習に関する意識調査で肯定的な回答をした児童・保護者が80%以上(学習推進部)	・授業研究部を中心に、主体的な学習に向かうための算数科における学習指導方法の研究に取り組む。 ・学習推進部が発達段階や目的に応じた自主学習の方法や内容について提案を行い、保護者と連携して家庭学習の習慣化を図る。	B	・主体的な学習に関する意識調査で肯定的な回答をした児童が92%、保護者が94%であった。この調子で、今後も問題設定と振り返りについての指導方法について探る。 ・自主学習に関する意識調査で肯定的な回答をした児童が80%であった。しかし、保護者は59%であった。自主学習についての通知、日々の確認と称賛を行う。	B	・主体的な学習に関する意識調査で肯定的な回答をした児童が94%、保護者が97%であった。どちらも向上することができていた。 ・自主学習に関する意識調査で肯定的な回答をした児童が89%で9%高まった。しかし、保護者は53%と6%低下した。児童の姿には確かな変化があるので、保護者への周知と協力をお願いについて工夫が必要。	B	・保護者への周知、協力依頼への工夫が必要と感じる。 ・保護者の意識を高めることに難しさを感じる。 ・自己肯定感が高い児童の実態を生かした取組を期待する。	・研究主任 ・学力向上CO
●心の教育											
	○児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分の学校が好き、楽しい」という児童の割合90%以上	○「道徳や朝会、集会活動を中心に、豊かな心を身に付ける指導(愛校心に関する指導)を積極的に行う。自分や友達の長所や学校の魅力を考える授業を工夫して、自尊感情を高めていく。	・道徳や朝会、集会活動を中心に、豊かな心を身に付ける指導(愛校心に関する指導)を積極的に行う。自分や友達の長所や学校の魅力を考える授業を工夫して、自尊感情を高めていく。	B	・自分の学校が好き、楽しい」という児童の割合88%達成。愛校心に関わる指導を継続する。 ・人権教室で「ほかほかの木」に取り組み。相互理解、自尊感情を高めることができた。	A	・自分の学校が好き、楽しい」という児童の割合95%とおおむね達成。 ・全校児童が「ほかほかの木」に取り組み、自分の頑張りを認めることで自尊感情を高めることができた。	A	・「6年生を送る会」の参観で、児童の学校生活が充実して素晴らしいものであると感じ取れた。 ・豊かな心、感受性を磨くためにも、体験活動や人、本との出会いができるカリキュラム作成を願う。	・心づくり部長
	○いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていないと回答した教員90%以上	○「いじめの防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていないと回答した教員90%以上	・毎月「なかよしアンケート」を実施し、未然防止、早期発見、早期対応に努める。(話し合う時間を作る。) ・毎月、生徒指導、教育相談会議を行い、気になる児童について全職員で共通理解を図る。	A	・いじめの防止等について組織的対応ができていないと回答した教員100%達成。 ・気になる児童への共通理解や対応も適切に行うことができています。	A	・いじめの防止等について組織的対応ができていないと回答した教員100%達成。 ・具体的な取組について計画的に実施し、気になる児童への組織的な対応も適切に行うことができた。	A	・「いじめがない学校=保護者からのクレームがない」と等しいであろう。日々の教職員の努力の成果であると思う。今後も継続を期待する。 ・近所の子ども士のトラブルに注意する必要がある。登下校時間帯のトラブルに目を光らせてほしい。	・人権・同和教育担当 ・道徳教育推進リーダー
	○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	○「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒90%以上 ○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	○「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒90%以上 ○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・教育活動全般を通して、「出番・役割・承認」運動に積極的に取り組むことで、子供たち一人一人の自己肯定感を高める。 ・道徳や他の教科等、神崎市「教育の日」週間で、自分の夢や将来の目標を意識できる教育活動を設定する。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒93%、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒88%。 ・学校行事を通して自分の役割に責任をもって取り組んだり、達成したことを認められたりしたことで自尊感情を高めることができたが、目標を持っていない児童への支援が必要である	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒95%、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒91%。 ・学校行事を通して自分の役割に責任をもって取り組んだり、達成したことを認められたりしたことで自己肯定感の高まりがみられた。	A	・自己肯定感が高く、よい。	・心づくり部長
	○「仁比山っ子のよい子」の徹底	○仁比山っ子の決まりや神崎市四か条の誓いをもとに立てた月目標の達成率85%以上	○仁比山っ子の決まりや神崎市四か条の誓いをもとに立てた月目標の達成率85%以上	・月1度の生活朝会で「仁比山っ子のよい子」をもとにした決まりを周知徹底、評価することで児童の情操教育を行う。	A	・仁比山っ子の決まりや神崎市四か条の誓いを意識した指導ができた職員94%であったが、挨拶は、だいぶ良くなった。 ・「仁比山っ子のよい子」の周知徹底、評価の継続。	A	・仁比山っ子の決まりや神崎市四か条の誓いを意識した指導ができた職員100%であった。挨拶はよくなったが、無言清掃は、意識づけが必要である。 ・「仁比山っ子のよい子」にちなんだ月目標の設定と指導により周知徹底を図った。評価の継続が必要である。	A	・市の取組とも連動しており、よい。	・生徒指導主任
●健康・体づくり											
	○「望ましい生活習慣の形成」	○手洗いの習慣化とハンカチの携帯90%以上 ○「早寝早起き朝ごはん」に努めている児童80%以上	○手洗いの習慣化とハンカチの携帯90%以上 ○「早寝早起き朝ごはん」に努めている児童80%以上	・衛生習慣の定着と意識向上をめざし、日常的に指導し、定期的に検査をする。 ・通信や学級指導などで規則正しい生活習慣の重要性について啓発する。	B	・規則正しい生活(早寝・早起き・朝ごはん)を送ることができていると答えた児童は91%で保護者は82%となっており、意識に差がある。特に、寝る時間が遅くなっている児童もいるので、引き続き指導が必要である。 ・エチケットタイム点検を週1回取り組んでおり、衛生週間の啓発に取り組んでいるが、数名の児童が継続して忘れてきているので、毎日持つよう指導していく必要がある。	A	・規則正しい生活(早寝・早起き・朝ごはん)を送ることができていると答えた児童は91%で保護者は89%となっており、いずれもほぼ9割ができていて答えている。しかし、寝る時間が遅くなっている児童もいるようなので、引き続き指導を継続していく必要がある。 ・エチケットタイム点検を週1回取り組んでおり、衛生週間の啓発を継続的に取り組んでいることで、毎日持つ児童が増えてきている。	A	・過程との連携を工夫し、引き続き取り組みを推進することを期待する。	・養護教諭
	○児童の安全意識や危機回避能力の育成	○ヘルメットの着用率、防犯ブザーの携帯率100% ○交通事故・生活事故発生件数ゼロ	○ヘルメットの着用率、防犯ブザーの携帯率100% ○交通事故・生活事故発生件数ゼロ	・ヘルメットの着用や防犯ブザーの携帯推進について、通信等で保護者への啓発を図る。毎月チェックし、意識付け、指導を行う。 ・交通安全教室や学級で、自転車の乗り方や歩き方の指導を行う。 ・全校朝会や学級指導においてルールとマナーを周知させ、道具の適切な使い方、室内での過ごし方について継続的に指導し、安全確保に努める。	B	・ヘルメットの着用率、防犯ブザーの携帯率が保護者アンケートの結果ではほぼ100%となっているが、実際にヘルメットをかぶっていない児童も見かけるので、引き続き継続して指導していく必要がある。 ・交通安全教室を実施し自転車の乗り方や歩行の仕方の実技訓練を行った。 ・交通事故・生活事故発生件数は0であった。	A	・ヘルメットの着用率、防犯ブザーの携帯率が保護者アンケートの結果では93%となっているが、実際にヘルメットをかぶっていない児童も見かけるので、引き続き継続して指導していく必要がある。 ・毎月の一斉下校指導や日々の学級指導を継続し、交通事故発生件数は0で、大きな生活事故もほぼなかった。	A	・過程との連携を工夫し、引き続き取り組みを推進することを期待する。 ・通学路の安全確保は地域の大人の責任だと改めて感じた。 ・ヘルメット未着用児童を見かける。ヘルメット着用の徹底を粘り強く指導してほしい。	・安全教育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進											
	○業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	○教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	○業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・業務の効率化を図るとともに、退勤時刻を設定(退勤時刻18:30)し、毎月の時間外勤務時間平均35時間以内を目指す。また、定時退勤日(金曜)を設定、確実に実施する。	A	・退勤時刻は、ほぼ予定通りであった。 ・4月～7月の毎月の時間外勤務は平均28.9時間であった。 ・業務のスリム化と、デジタル化が進んだ。	A	・会議の精選と縮減、事務時間の確保、ICTの活用等により業務改善を図った。退勤時刻も設定通りであった。 ・業務時間外勤務は、平均30時間未満であった。	A	・働き方改革における意識変革がすばらしい。 ・膨大な業務量だろうが、見直しをもつことが大事。週案の作成をまとめて行うなど定時に帰る工夫を実践してほしい。	・教頭
	○信頼される教職員としての意識の向上	○「コンプライアンス意識をもち、服務規律の保持・徹底に努めている」教職員100%	○「コンプライアンス意識をもち、服務規律の保持・徹底に努めている」教職員100%	・「服務ゼロの日」を月1回設定し、服務規律の保持徹底について計画的に研修を行う。 ・危機管理マニュアルの見直しと報告・連絡・相談・確認の徹底、関係機関と連携する。	A	・「サービスゼロの日」を月1回設定し、服務規律の保持徹底に向けた研修については、ほぼ、計画通り実施できた。職員の不祥事、加害事故はゼロ。 ・避難訓練等に危機管理マニュアルの見直しを行った。「報告連絡相談確認」の徹底については、今後も意識付け	A	・「サービスゼロの日」を月1回設定し、服務規律の保持徹底に向けた研修については、計画通り実施できた。職員の不祥事、加害事故はゼロ。 ・緊急時には危機管理マニュアルに沿った対応ができた。「報告連絡相談確認」の徹底に向け、さらに意識を高める。	A	・職員間の連携が見られ、素晴らしい。今後も継続を期待する。	・教頭
●特別支援教育の充実											
	○個の特性に応じた指導・支援の充実	○日常的に児童の様子を細かく観察し、教師間で情報共有し、協議を行う。 ○校内研修を実施し、教師の専門性を高める。	○日常的に児童の様子を細かく観察し、教師間で情報共有し、協議を行う。 ○校内研修を実施し、教師の専門性を高める。	・年2回、就学支援委員会を開き、支援・指導の現状や適切な就学先を確認する。 ・年3回研修を行い、児童の指導支援に生かす。	B	・1回目の校内就学支援委員会を6月に開催、適切な就学先を確認することができた。・経年数が深い特担任と教育課程や自立活動に関して研修会を開き、児童支援へつなげることができた。	A	・2回目の就学支援委員会では、適切な支援や中学校進学を含めた就学先について共通理解することができた。・12年生児童の支援方法について巡回相談を利用し、支援方法について保護者や学級担任と共通理解し、児童支援へとつなげることができた。・特担任とは週1回以上話し合い、専門性を高めた。	A	・特別支援学級に係る支援員との連携がうまくいっているようで、すばらしい。 ・児童を過度にラベリングすることなく、子に応じた指導を行ってほしい。	・特別支援教育CO

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
	○実践の共有、指導力の向上	○教職員の資質能力の向上に資する職員研修の実施	○実践力アップのためのミニ研修の実施 ○教職員研修における校内講師の推進 ○相互授業参観の実施	・実践力アップのためのミニ研修の実施 ・教職員研修における校内講師の推進 ・相互授業参観の実施	B	・前期に計画していた研修はすべて計画通りに実施できた。 ・情報教育推進リーダーによる1人1台端末活用研修を行った。授業に有効活用できるよう、定期的に実施したい。 ・相互授業参観は、ほぼできなかった。	B	・計画していた研修は予定通り実施できた。放課後、短時間で校内職員が講師となって数回ミニ研修を行ったが、計画した回数は満たなかった。 ・相互授業参観の実施が難しく、校内研究の授業を参観するので精いっぱいであった。計画的に推進する必要がある。	A	・ミニ研修など工夫がされ、教職員の情報交換やコミュニケーションの工場が感じられる。 ・相互授業参観の実施は難しさを感じる。創意工夫が必要である。ベテランと若手の連携強化に努めてほしい。	・教頭
○知的な学校づくり											
	○読書指導の充実 ○スキルタイムの充実による基礎基本の定着と認知力の向上	○児童は、よく本を読んでいて、読書する習慣が身に付いている。教職員90パーセント以上。 ○週3回のスキルタイムで力が付いた児童90パーセント以上。	○児童は、よく本を読んでいて、読書する習慣が身に付いている。教職員90パーセント以上。 ○週3回のスキルタイムで力が付いた児童90パーセント以上。	・毎朝の朝読書の実施 ・毎週の読み聞かせの実施 ・週3回のスキルタイム(音読・計算・コグトレ)の実践	B	・読書習慣に関する意識調査で肯定的な回答をした教職員が94%であった。 ・スキルタイムの効果に関する意識調査で肯定的な回答をした児童が89%であった。 ・4年生以上での毎週の読み聞かせ実施について計画を立て	A	・読書習慣に関する意識調査で肯定的な回答をした教職員が87%であった。 ・スキルタイムの効果に関する意識調査で肯定的な回答をした児童が93%であった。 ・4年生以上での毎週の読み聞かせ実施について計画を立てて実施できた。	A	・神崎中学校区における3校の取組があり、工夫が感じられる。 ・スキルタイムがよくなるだけでは学力テストの向上につながらない。難しい課題ではあるが、教師の授業力向上、児童の学力向上に向けて頑張ってもらいたい。	・学び部長

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究において、「学びをつなげる主体的な学習者の育成」を目指し、授業力向上、家庭学習の充実にも努めることができた。一方で、各種調査等から見えた課題も多い。次年度も、算数科を中心に据え、授業力向上、学力向上に努めていく。 ・学校全体として、児童は落ち着いた毎日を送ることができている。学校が組織として機能し、職員一人一人が自分の役割を果たすとともに教職員同士が協働した結果だと考える。風通しのよい職員間の雰囲気やそうせたと感じる。 ・保護者、地域の理解や協力のもと、体験的な学習活動を実施することができた。次年度も連携体制を維持し、教科横断的な学習を推進していく。 ・自然災害等時の避難や不審者対応、交通事故防止等、常時危機意識をもちレベルアップしていく必要がある。安心安全な学校運営に全職員一丸となって取り組んでいきたい。保護者、地域との連携を密にすることがより重要になってくると考える。
----------------	---